

人権作文 代表作品

令和7年10月18日(土)にかみかわハートフルデイ2025が開催され、表彰された人権作文です。

(敬称略)

ちがいに気づいた日

神川中学校一年 堀口 空希

私は、休日に友達と公園で遊んでいました。公園で遊んでいた時、数人の障害のある子たちがきました。その子たちは、私と友達で遊んでいる近くまできました。その時、一人の子が急に私の服の袖をつかみました。私はびっくりして何も言えず、体が少しかたまつてしまいました。私はどうしたらよいのが分かりませんでした。隣にいた友達は少し嫌そな顔をしていました。私は「どうして急に？」と心の中で思いました。少しわかってきたのを覚えています。

その日、公園から帰ってきて、私はふとその子のことを思い出しました。そして「もしかしたら、言葉ではうまく伝えられなかつたけれど、一緒に遊びたかったのかもしれない」と思い、はつとしました。私は何もできずに驚くだけだったけれど、もし私がその子の立場だったら、どんな気持ちだったのだろう、と考えるようになりました。障害のある人たちは、見た目や

自分の好きな色

青柳小学校四年 原 歩花

敬称略

わたしの好きな色は緑です。わたしのたん生石がエメラルドなので、その色がとても好きになりました。緑は、自ぜんな感じがするのでいいなと思いました。でもこの色は、男の子が好きな色なのではないかと思うようになりました。

ある日、図工をやっている時に絵をかいた紙を画用紙にはる作業をする時間に、わたしは緑色の画用紙をえらんだ人は男の子しかいませんでした。けれど、わたしの予想通り緑色の画用紙をえらんだ人は男の子しかいませんでした。なので、今度からは黄色やむらさき色にしようと考えていました。でも、やっぱり緑が大好きだから、次の時の図工も緑色にしました。けれどもわたしは、女子だからとは何も言われませんでした。少しほっとしたような気がしました。だから、わたしの考えは変わりました。

男の子だから女の子ではなく、だれもが自分の好きな色を持つていていいとわかりました。また、今は男の人でもピアノが上手にひけたり、女人の人でもサッカーをやつたりする人達がいることを知りました。なのでわたしは、男の子だから、女の子だからということを気にしないで生活していると思いました。

これからは、一人一人のこせいをゆたかにして、そのようなことは考えず、みんなとなかよく勉強したり、遊んだりしたいと思いました。また、自分自身も女の子なのになどとは言わないでいきたいと思いました。みんなのこせいをひていせす、さべつをなくしていきたいと思います。これからもみんなとなかよく毎日を生活していきたいです。

行動が自分と違うことがあります。でもそれは、「悪い」ことではなく、「その人の個性」なのだと、この体験を通して気づくことができました。違いがあるからこそ、お互いを知ろうとする気持ちが必要なのだと思います。

私はこれから、見た目や行動が自分と違うだけで相手を判断するのではなく、「この人はどんな気持ちでいるのだろう」「何を伝えたいのかな」と、相手の立場になって考えられる人になりたいです。困っている人がいたら、勇気を出して声をかけたり、手を差し伸べたりで生きる自分でいたいと思います。もし、自分が逆の立場だったら、そんな小さな優しさにとても助けられることもあると気づきました。だからこそ、どんな人に対しても思いやりを忘れず、気持ちに寄りそなうことができるようになりたいです。そして、これから学校生活やこれから先の人生の中でも、自分とは違う人との出会いを大切にし、ひとりひとりの個性を認め合いながら生きていく人間になりたいと思います。違いをこえるために、私にできることを行動で示していくのです。



その他の代表作品 (タイトル、作者名)

なかよしの見つけ方

神泉小学校二年 中山 もも子

ありがとうの気持ち

神泉小学校三年 新井 朱美

ぼくのクラス

丹莊小学校五年 奥原 鈴斗

当たり前

神川中学校二年 城 和花

だれもが楽しいクラスへ

神川中学校三年 福島 結夏

紙一重の「いじり」と「いじめ」

神川中学校三年 福島 結夏